

東日本大震災被災地応援実行委員会より

轍 わだち

2021.4.12 NO.132

新入生のみなさん！はじめまして！

10年目の被災地応援のバトンをつなげましょう！！

初代実行委員長・副委員長の願いを受け継ぐ（2011年4月12日発行 轍1号より）

「被災地を思う気持ちが、どんなに強くても、「気持ち」だけでは変えられません。「行動」を伴わなければなりません。」「孤独にさらされている人に、あなたは一人じゃないという声を伝え続けたいのです。」

10年の歩み…委員会に参加してきた先輩たちは…今何を思い、何をしているか

私、今の学校でボランティアをすることに決めました！！平女で、東日本被災地応援実行委員会で、経験を積み重ねてきた中で、私は誰かの人の役に立ちたい、愛を届けたいという気持ちがいつも心の中にあるようになりました。留学先のニュージーランドでも、誰かを助ける、社会に役に立てるのではないかと思い探していたんですが、がん患者とその家族の方々への募金活動を始めることにしました。私が募金活動をする対象が被災者の方から、病気を患っている人に変わりましたが、自分の愛はあの時と変わりません。<2021年2月に現地より届いたメールより>

*先輩が作ったこのがん募金に協力したい人は、総合担当教員に声かけてください。

私は、中学1年の時から委員会に参加してきました。その時は「何か自分ができることをしたい」という思いだけでしたが、卒業して初めて分かったことがあります。それは、人に寄り添える仕事がしたい強い気持ちがあり、人に喜んでもらえるために働きたいという思いが、活動を通じて自然に身についたのだと思います。だから、今まで、これからも福祉関係の仕事をしていくことが私の生きがいです。

<2021年4月に聞いた話より>

クイズに答えてくれた方に、貴重な絵葉書差し上げます

Q1.東日本大震災は、マグニチュードいくら？

A 6.5 B 7.3 C 9.0

Q2.東日本大震災で津波被害を受けた太平洋側の県は何県？

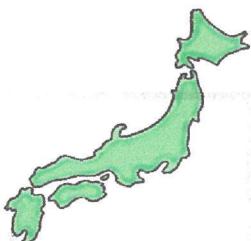
A 2県 B 3県 C 4県

Q3 東日本大震災の影響で発生した「帰還困難区域」は何が原因？

A 地盤沈下 B.非常に高い放射線量 C 野生化した家畜被害



漫画「美味しんぼ」で紹介された旭寿司の会長さんが送ってくれた絵葉書です。総合の先生からもらってね



教訓の継承 全国の動き～震災10年、そして

東日本大震災では、死者・行方不明者、関連死を含め2万2千人以上が犠牲になった。次の災害で被害を繰り返さないよう、残された教訓をどうつなげ、どう活かすか。全国で相次ぐ災害の被災地で、模索が続いている。

東日本大震災で被災した宮城県気仙沼向洋高校（気仙沼市）の旧校舎は保存・改装され、2019年3月「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」として開館した。——「原形がわからない車が何台も折り重なり、津波の威力を感じます」と、語り部が言う。実際、建物3階に突っ込んだままの車や大破した外壁が、津波の恐ろしさを訴えかける。



同館では、大人だけでなく地元の中学校・高校の生徒有志約80名が「語り部」として活動している。その当時彼らは、まだ就学前の幼児だったり、せいぜい小学生低学年であった。現役中学生の語り部は云う。「震災を忘れず、次に生まれた子たちに同じ経験をさせないために語り部を続ける」と。同じ宮城県三陸町では、被災地を巡る「語り部バス」が毎日運行される。震災後の二次避難所となった「南三陸ホテル観洋」が、2012年2月から宿泊客のために運行を続けている。語り部は、被災経験を持つ当ホテルの従業員で、これまで39万人が乗車し、リピーターも数多くいるのだそうだ。

東日本大震災で被災した東北4県では、震災遺構や慰霊碑を「震災伝承施設」に登録し、「3・11伝承ロード」として発信している。津波に耐えた姿が復興のシンボルとなった「奇跡の一本松」（岩手県陸前高田市）も同様であるのだ。

津波で流された自動車などが残る気仙沼向洋高校の3階で、見学者に説明をする地元の中学生の語り部（毎日新聞2020年12月13日掲載）



災害の記憶や教訓を伝承する取り組みは、全国でも進んでいる。2016年4月の熊本地震の被災地では、崩落した阿蘇大橋や山腹崩壊などの現場が震災遺構として残され、復興が進む熊本城とあわせて「震災ミュージアム」として位置づけがされている。先の2004年の中越地震の後に設けられた「中越メモリアル回廊」を参考にしたそうだ。こうした取り組みは被災した経験を、単なる歴史事象としてだけ捉えず、被害を後世に伝え、「防災力意識の醸成」強いでは「地域コミュニティの結束」を目指していく糧となるのではないだろうか。



熊本地震で崩落し、県が震災遺構として保存

工事に着手する阿蘇大橋の橋脚

（2021年4月7日熊本日日新聞より）

この南三陸ホテル観洋の「語り部バス」は、第3回ジャパン・ツーリズムアワード大賞を受賞し、また、「語り部」の役割を「KATARIBE」として世界に広げようと全国被災地語り部シンポジウムがスタートし、第3回は、女将さんたちの努力で、2018年2月に南三陸ホテル観洋にて開催された。